

がしすて、あらたに水を加ふる事あるべし

かくて、鹽をも少しく加へて、めぐらすべし、

○右の如くする事、一時間以上にして、ふたをとりて、抄子にて、なかのをすくひて、う

つはにもりて出すべし

◎略製スチューエツクス拵方

○牛酪 ○牛乳 二合

牛酪を、少量と加して、其鍋の中へ、ウドン粉

メリケン十五匁位いれて、ねり合す、かたきほどに

ねりて鍋をゑろして、牛乳二合ほど入れて、よ

く合せ鍋を火にかけて、箸を六七本よせて、持

て、これにてかきまはし、四分間位して、つよ

くかきまはし、二分間して、ねろすべし、

さてべつのなべの中へ右の合せたるを入れて玉

子の黄味白味とも切りたるを

○切方は養ぬき玉子にしたるを、からを去りて三つ位にわがりにきりたるなり

これを別鍋に入れて、なべの(土鍋の平たく三四寸の深さの物)上面に、前の合せたるち、汁

の内をのこしねきたるをかけて、すりいもかけたる如くして、又玉子の切りたる中を三つ四つ、

黄味だけのこしおきたるを(手篩にて、こして、粉にしたる物)ばらりとかけて、むしやきかま

どのなかに入れてやく、

○やく仕方は、すこし上つらにこげめつきたる位にてよろし

家庭に於ける所感

長野縣 飯塚忠次郎

(三) 未來の家庭

そこで此の二岐の家庭のお話を申して置けば、私

が今更ことわたらしくいはなくとも圓滿の家庭をつくらんことを、賢明なる皆さま方はきつとお思ひでしよう、人として誰れしも好き好んでわざわざ、不和な家庭をつくる者は御座いませぬ、何故に世間には圓滿な美しい家庭がすくないのでありましようか、よくよく推考してまゐりますと、よつて来る所は、其家の人々の心一つでどうでもなるので御座います、それを不和なる家庭であつてもたいうはべばかりかざつて、現在生存してゐる人の多いのには慨嘆にたえませぬ、私はそれで事たれりとしてゐる人はないでしようと思ひます、さらばなぜに家庭を清くしないかといふ問題は自然起つてまゐりますが、それには色々な事柄が含有してゐるのであつて、其くはしいことはあとで述べたてることとして、やさしく、こくわかりやす

く、申せばまだまだ多くの人の家庭思想がごく幼稚であるからだと思ひます、それはとにかく今日の家庭では到底満足することは出来ませぬ、或人は云ふかもしれぬ「なんだ、馬鹿馬鹿敷、人もたのみもしないのに、かたぐるしい、こむづかしい、家庭のことなにかへ、よけいな口ばしをだして」と、その様な人があつたとしたならば、まだまだ人間の天職本分をしらない無責任な人と云はなければなりませぬ、苟くも人類の一分子、此地球上に呱呱の産聲をあげて生れた以上は、世間の人がどういはうが自分でこれはよいことであるとみとめたならば、如何なる艱難をもいとはず盡すのが人間のつとめと思ひます、またこれだけの勇氣がなければ如何なる事業も成功することはできません、殊に家庭のことなどに於いては多言を要しま

せぬ、よく皆さん方の銳利なる二つの眼でもつて四方をみたらどんなでしよう、現在我國改良すべさみの幾何、曰く教育、宗教、家庭、と述べきたり書きさたれば、その數の多さに驚くのみである、教育の本体如何、家庭の本体如何です、私だちをして只だ噫なる言葉を發せしむるのみであるとは何んとなさけないでは御座いませんか、嗚呼、將來良妻となり賢母となり夫となり主人となつて、家庭を取扱ふ世間一般の人々は、何卒研究に研究をかされ經驗に經驗をつんで、現時我が暗黒なる家庭の上に一道の光明を與へ、其主義を鼓吹し普及して行つたなら、早晚我が國の家庭は全く一致され美化されて爛熳たるよろこびの花は咲きみちることは毫も疑ふべからざる事實と思ふのであります、此様な美しい家庭が軒を並べて社會にみちみ

ちたならば、日本は所謂天上の樂園となつてしまふ、然し其様になるまでは前途甚だ遠遠で御座います、圓滿なる美しい神聖なる家庭が集つて立派な村、町、市、國、が建設せられ以て立派なる國民が生れるのであると云ふことがらを深く記憶していただきたいのであります。

#### (四) 家庭の分類

家庭と云ふものは如何なる組織に依つてかたちづけられてるか、一男一女が集つて一家をつくる之を稱して家庭と云ふので、英語でホームなるものである、然し此家庭の組立には色々ある、夫婦のみのもあれば、夫婦、小兒、下女、下男、等よりなるものも御座いまして、いちいち指示するとは出来ないが、一般の組織はまづこんなものであると思ひます、貴賤貧富を論ぜす一つの家庭が集つ

て一村をなし、一町をなし、一市、一國、世界も  
 かたちづくるのであるから、各自の家庭が圓滿に  
 美しくなれば自然と清き町、村、市、國、世界、  
 もつくることが出来得ると思ふのです、是は只に  
 自家の幸福のみならず國家の榮え行く基礎で御座  
 います、そこで此の家庭を三種に分類することが  
 できます、即ち上、中、下、と従つて社會も上流、  
 中流、下流、にわかれてこなければなりません、  
 そこではじめて上流の家庭、中流の家庭、下流の  
 家庭と云ふ名稱がで、まゐります、左に三家庭に  
 就いてすこし述べてみましょう。

(一) 上流の家庭、とは主に富貴なる人々の集合に依  
 つて組織せられたる家庭を指示するのである、一  
 例をひいて申そうなら岩崎とか三井とか言ふ家庭  
 の一団体に依つて成立した交際の激烈な家風の何

となく艶美な整頓した家庭、然し華美に流れる風  
 習のあるのは大なる缺點であらう。

(二) 中流の家庭、とは一般に富ならず貴ならず、即  
 ち普通の人々の集合に依つて組織せられたる家庭  
 である、即ち普通の人々の集合に依つて組織せら  
 れたる家庭です、そうして悲しいことには誠に缺  
 點のありがちな家庭で最も大なる缺點とも申すこ  
 とは、不和の多いのです。

(三) 下流の家庭、とは其多くは貧賤なる人々の集合  
 に依つて、できてゐる家庭で朝はやくから出て星  
 をいただいて歸へると云ふ労働者が多い、且つ共  
 同一致してかせぐと云ふ風があるは何より嬉しい  
 ことで、中流の家庭に比すると不束ながらも不和  
 な家庭がすくない様に思はれるのです、只だ缺點  
 とするところは「氏よりそだち」とも申そうか、

風習、言語、がまことに卑しいことはどうしてもまぬかれませぬ、如何となればその多くは無教育者が多數をしめてゐるからで御座います。(未完)

雑感

在東京盲啞學校 平岩繁治

一 子供母の体内より生れて此の婆娑に出ると同時に即ち赤子時代から命令を奉ぜる習慣を養成する事は最も必要なる事と思ひます。

その若し命令を奉ずる觀念なき時は、子供は自然知らずの間に我が儘になりまして、後には父母の命令を始め、一切の命令を用ひぬえりになります。その始めには二つの命令は一つ奉じ三つの者は二つとゆへ風にだんだんと命令は皆奉ぜずとも能き者又は奉ぜぬとも父母は用捨してくれるものであると云ふ觀念増長し、成人するに従ひて追々命令を用ひぬえりになつて遂に學校に行く様になつても、其の漸消へないで學校の命令もあまり用ひずなりて、後には、つまり其の子の不幸且つ父母に對して孝行どころではない、却つて不孝となり善にも捧げにもかゝらぬ様になります、尙ほ成人して後一定の仕事も思ふ様に手につかず、或は社會

の命令及諸規則等も遵奉せぬ様になるのであるから、其の養育の任に當つて居るものは務めて「オキヤリ」と生れ出た赤子時代から凡て命令約束等は奉ずるものであるとゆへ念を起さしめて生涯の習慣となる様保護感化訓練上大に注意せねばならぬ事と思ひます。

二 子供には惜まず食物を與へよ。これは無暗に間食させよと云ふのではありません。一定の時に於て與へよといふのであります例へば朝晝晩の三度は勿論であるが天真爛漫活動性に富める子供に三度丈では足らぬ感があります、全体子供と云ふ者は生理上消化上から見ても食を欲するは自然の勢なれば三度の食事の間に於て規則正しく與へる方宜しく思ひます。特に子供が授業後學校から歸へつて來ました時は、父母其の他の人等も其れを待つて居て歸り來たならば直ぐ御膳を出して(サー)御喰へよといふ様にしたが宜しと思ふ、斯くする時は種々な利益があると思ふ(子供から御母さん腹がへりました何か頂戴と催促されない中に與へるのであります)即ちつまらない買喰(菓子餅等)も止むだらう、又みだりに他人の物を慾しがらない様になる即ち慾ぼる心をふせぐことが出來ます。又學校の往復に子供は道草を喰ふて居るが其れも自然に止んで來る、友人の家等に遊びに出かけても一定の時間が來ると歸へつて來る、又は子供の中は慾の深いものであ